

別記様式（第7条関係）

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度第1回富士川町食育推進協議会
- 2 会議日時 令和6年6月26日（水） 午後4時30分～5時30分
- 3 開催場所 富士川町役場 1階会議室101
- 4 出席者数 委員10名（欠席者1名）、事務局3名、傍聴者0名
- 5 協議会の内容
 - （1）開会
 - （2）委嘱状交付
 - （3）会長あいさつ
 - （4）自己紹介
 - （5）議事
 - ①第3次富士川町食育推進計画の概要
令和5年度の実施の評価について
 - ②令和6年度の実施予定について
 - ③各委員から食育に関する実施の紹介
 - ④その他
 - （6）閉会

6 発言の内容（議事）

事務局：第3次富士川町食育推進計画の概要、令和5年度の実施の評価について説明。

委員A：情報のデジタル化とは、例えばLINE等を使つての情報発信のことか。

事務局：写真や動画での情報発信やQRコードの活用等のことである。インターネット等では簡単に情報が手に入るが、そこから正しい情報を選ぶことができるよう、町が正しい情報を伝えていきたい。

事務局：令和5年度の実施の評価について説明。

委員A：朝食を食べる児童・園児の割合のアンケートはどうやってとっているか。

委員K：アンケートは、1人1台使用しているタブレット端末を使ってとっている。

委員I：この数値は、他の自治体だと99%とか97%ということか。

委員K：他の自治体の数値はわからない。令和4年度は小学校が90.5%中学校が84.2%、令和5年度はそれより数値が下がっている。

委員 I：参考数値の県と比べると、差があるように感じる。

委員 K：分母が少ないため、何人か食べないと回答すると数値が変動するが、県平均に近づけたいと考えている。

委員 A：保護者が朝食を食べないと子どもも食べないのかなと感じる。保護者に対する情報発信が大事。

委員 H：保護者へ向けたアンケートを実施し、その結果を踏まえた取組を実施すると効果的な取組ができるのではないかな。

委員 F：学校で朝食の実態を調べたいと考えたことがあるが、家庭の事情や個人的なことについてアンケートをしてもいいのか、保護者の働き方や貧困等の実態を調査することにも繋がるため判断が難しい。

事務局：現状把握も必要であると考えするため、把握できる方法を検討したい。

委員 I：11番のリユース食器導入促進について、利用件数を増加させるために何か取組を考えているか。

事務局：コロナでイベント自体が復活せず、件数が思うように増えていない。広報等に掲載する等、利用促進をしていきたい。

事務局：令和6年度の取り組み予定について説明。

委員 A：各委員から食育に関する取組の報告をお願いします。

委員 A：食生活改善推進員はフレイル予防に力を入れている。バランスよくしっかりご飯を食べるということを伝えていきたい。

委員 G：峡南幼稚園では、幼児期の生活習慣が大切と考えている。早寝・早起き朝ご飯の周知や、さつまいも苗を植え収穫し、スイートポテトを料理して食べるという一連の食育を実施している。自分たちの手で作ったものの喜びを感じているのではないかなと思う。少しずつ食育の取組を増やしていきたいと考えている。

委員 H：PTA活動として食育をメインとした活動というのはないが、学校で子ども達が学んできたことを家庭で一緒に確認したり、食について話題にするようにするなど、家庭においてできる食育に取組んでいる。

委員 I：保護者会としての活動はないが、家では子どもと一緒にミニトマトを育てている。子どもに食材や素材について伝えるようにしている。

委員 F：小学校では、年間指導計画に基づき、給食や各教科、道徳の時間等を利用して子どもたちに、食の大切さやマナー、地産地消や食文化について伝えている。また、栄養教諭が各教室を回り、今日の献立の説明や食材についての説明をしている。

委員 J：町立保育園では、野菜の栽培や収穫した野菜を給食として提供をしている。
特に野菜は、自宅では全く食べないけれど、園では完食する子が多いので共食の大切さを感じているため継続したい。

委員 K：給食センターは、給食を中心に栄養教諭から町内の学校全て栄養指導を行っている。毎月給食だよりの発行を行い、子どもや保護者に、食に興味を持ってもらえるよう工夫をしている。また、地産地消にも取り組み、地元の特産品ゆずや、みみを使った料理、富士川町だけでなく峡南地域の食材であるあけぼの大豆、大塚人参、甘々娘を提供するようにしている。また、併せて必ず栄養指導を実施している。

委員 E：地域の特産物を学校給食に提供している。令和5年度は、生産者の方にし、学校給食に10か所、約2300キロぐらいの食材を提供した。今後はもっと多くの生産者に呼びかけ、学校給食に食材を提供できるよう、給食センターと生産者との橋渡しの役割をしたい。

委員 D：学校給食にゆずの果汁が使われることが多くなってきた。地域の特産品を使った食事を子どもたちに提供できるようにしたい。

委員 C：子どもとの田植え体験を通して、根にお米がついている状態を見せ、それが米になることを説明したり、稲刈り後の米を参加した保育園へ提供し、自分たちが作った米を食べるといった、循環するシステムを作っている。また、台東区の蔵前小学校の給食の残渣をたい肥化し、田んぼに撒き、米を作ってまたそれを蔵前小学校に送るという事も行っている。

事務局：第2回食育推進協議会を、令和7年2月頃を予定している。